

今回の体験を終えて、障がいを持たれている方々は、私たちと同じ普通の人たちだということ再認識しました。

私が体験に行ったのは、12月9日（月）～13日（金）で、利用者の方へ11月作業分の給料が支給される13日を含む週でした。13日は、午前中に11月で一番頑張ったしごとを発表しあい、給料を各自受け取っていました。午後は、各自の給料から200円ずつ出し合ってホットケーキを作りました。

“なかま”が楽しそうにホットケーキを作り、幸せそうに食べているのを見て、なかまの方々の純真さに感動しました。私が担当させて頂いたステップ班は、主に公園のトイレ掃除と落ち葉清掃がしごとになっていました。この一週間、ほぼ毎日のように午前中の寒い中、水を使ってトイレを掃除し、冷たい風が吹く午後も落ち葉清掃やチラシ配りを行われていました。手や顔が低温で真っ赤になり、鼻水も出しながら、それでもひたむきにしごとに取り組まれていました。職員の方々の助けを借りながらも、一生懸命にしごとをされてきました。このような頑張りで得た給料からお金を出し合い、なかまみんなで作って食べるホットケーキは、私には想像もつかない味がすると思います。自ら働いて稼いだお金でホットケーキを食べることで得られる達成感こそが、自立につながる大切な要素であり、福祉施設が大切にするものだと感じました。本当に幸せそうに調理をして食べる姿を見て純真な気持ちで一生懸命に生きているなかまともっと関わり、お互いにこの幸せを共有していきたいなと思いました。

今回の体験を通して、なかまの純真さ、ひたむきさに実習前の不安は払拭されました。これから学校に1人は“なかま”がいる状況が当たり前になると思います。その時に何をすべきか、今回学んだ「達成感を分かち合うためにはどうすべきか」を考えたいと思います。

以上